

【相談内容】

No36.コンクリート桁の断面修復工について

- 断面修復工にてコンクリート桁の補修をする場合、コンクリートをはつた後に、桁に差筋をする際、差筋の固定にエポキシ樹脂を用いている。
- その際に、エポキシ樹脂の注入量管理が必要なのか？
- 必要な場合、あと施工アンカーの品質確保（固着強度）のために1本ごとの注入量を数字で管理する必要があるか？

【助言内容】

- あと施工アンカーの品質試験（固着強度）のための注入量管理が必要かどうかについて、国土交通省道路局の「土木工事施工管理基準及び規格値（案）」令和4年3月ではアンカーボルト（あと施工アンカー）の注入量について品質管理基準は特に定めていない。
- ただし、アンカーの製品メーカーに注入量の管理（方法）を含め、製品の取扱説明書等や施工方法、品質管理方法、検査項目について確認が必要と考える。
- 「1本ごとに数字で注入量の管理をすること」が必ずしも固着強度が担保される保証にはならないと考える。あくまで接着剤の注入（充填）が定着部に十分いきわたっているかを確認できる方法にて施工することが重要である。
- 確認方法としては、接着剤の表面への溢れを目視確認する、注入用補助具を使用するなどして確認する等がある。
- また、注入（充填）が定着部にいきわたっているか目視により確認できない場合は、製品メーカーにも確認し、施工方法（確認方法）を再検討するなどの方が良い。
- 固着強度の確認については、アンカーボルト定着の品質管理として、ボルト設置位置で引張耐力試験を行うことが望ましい。